2023 年度点検・評価シート

・**評価の視点**【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I 【現状】**原則 2023 年 5 月 1 日現在の状況で回答してください。**

対象部局	42 英語学専攻	責任者	フランソワ・ルーセル	
基準 5	学生の受け入れ		自己評価	B

★基準 5 の自己評価の理由を簡潔に解説してください。

≪回答≫
昨年度、英語学専攻の研究生から 1 名の受験生があったが、やむを得ない事情により、受験することができなかった。近年、受験生がいなかったが、希望者が出たことは改善の兆しと考えられる。

点検・評価項目 (1)	**5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。**

★<学生の受け入れ方針>（記入してください。）

以下のようにアドミッション・ポリシーを定め、ホームページや大学院入学試験要項で公表している

外国語学研究科英語学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1．(1) 大学卒業レベルの十分な学力を有している。
　(2) 英語の運用能力を一層向上させる能力がある。
2．(1) 英語及び関連する分野について問題意識を持ち、それらについて高度な専門知識や幅広い言語運用能力で判断し、それを効果的に表現できる能力を持っている。
3．(1) 国内外の研究領域に対し、幅広い教養を身につけ、柔軟で創造的な思考を身につけたいと考えている。
　(2) 物事の本質を見極め、解決し、研究結果を通して社会に貢献したいと考えている。
　(3) 向上心が高く、修了後には研究者としてだけでなく、国連や外資系企業など国際的に活躍したいと考えている。

外国語学研究科英語学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.　(1) 前期課程修了レベルの十分な学力を有している。
2.　(1) 英語及び関連する分野について強い問題意識を持ち、それらについて高度な専門知識や幅広い言語運用能力で判断し、それを効果的に表現できる能力を持っている。
3.　(1) 英語学、英語教育学、言語文化学の各分野で、前期課程で修得した能力を活かして、更に向上心をもって勉学に励み、修了後には自立した研究者として国際社会に貢献したいと考えている。
　(2) 物事の問題の所在や本質を見極め、解決する高度な能力を獲得したいと考えている。
　(3) 向上心が高く、修了後には国連や外資系企業などで国際的に活躍したいと考えている。

変更　有（ ）　無（✓）

評価の視点 1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15
評価の視点 2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針
評価の視点 3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針
点検・評価項目 (2)	**5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。**
評価の視点 1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。

	根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4＊大東文化大学入学者選抜試験規程
評価の視点２※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報
評価の視点３※	専攻ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。 根拠資料→A3-11＊入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿
評価の視点４	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4＊大東文化大学入学者選抜試験規程

★項目 (2) 5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。

≪回答≫ 入学願書の内容の点検と筆記試験の結果を踏まえて、博士前期課程の場合は該当分野の教員全員で、博士後期課程の場合は、後期課程担当教員全員で面接試験（英語と日本語の両方を使用）をし、合否判定を行っている。	≪資料名≫ **42-C5-1：2022 年度第 4 回研究科委員会資料（議案 6：2023 年度外国語学研究科入学試験の出題および採点委員の選出について）**

★項目 (2) 5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施（オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。）

≪回答≫
試験中、会場に受験者以外の者がいないかを確認、通信環境の十分な事前確認。

評価の視点５	入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。(一般入試及び多様な入試への対応）根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4＊大東文化大学入学者選抜試験規程

★項目 (2) 5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の顧慮等）（オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。）

≪回答≫
オンラインによる面接試験は実施していない。万一、実施するとした場合、不正の完全防止には解決すべき諸問題があると考えられる。

◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）

≪回答≫
入学者選抜については特に問題はないが、学生募集に関しては、受験生の減少は社会状況による部分もあると思われるので、そのような要因も考慮しつつ、総合的に検討して行きたい。

点検・評価項目 (3)	**5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。**
評価の視点１※ **【基礎要件●】**	専攻の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。(2021 年 5 月 1 日現在) 注：定員管理の指針　入学定員に対する入学者数比率（5 年平均） 定員超過→2.00 以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表２、表３、基礎要件確認シート 16
評価の視点２※ **【基礎要件●】**	専攻の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。(2021 年 5 月 1 日現在) 注：定員管理の指針　収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→2.00 以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表２、表３、基礎要件確認シート 16
評価の視点３	収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

★項目 (3) 5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む）根拠資料を用いて回答してください。

≪回答≫ 大学院説明会やワークショップなどの機会を捉えて、学部の学生に大学院についての説明等を行っている。	≪資料名≫ **42-C5-2：大学院公開説明会 2022 年度資料（WEB）、「2023 年度 外国語学研究科ガイダン**

	ス・対面式」について（2022 年度 第 10 回外国語学研究科委員会、議事録要旨 議案 8）、ワークショップ（第一回）（フラヤー）、ワークショップ（第二回）（フラヤー）。
点検・評価項目 (4)	5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
評価の視点 1 ※ 【評価要件〇】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51　2023 年度点検・評価シート B2-52 会議録（または準ずるメール記録）:（開催日）2023 年度自己点検・評価について
評価の視点 2 【評価要件〇】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組みを行っている。
★項目 (4) 5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。	
≪回答≫ なし。	≪資料名≫ 42-C5-3：なし

Ⅱ現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。
※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	

Ⅲ今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。
※注：2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B 票No. or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2019-5Ⅲ-1(5-3)	定員充足率の改善	定員充足率を徐々に改善していく	入学定員の充足数	A(100%)：入学者：前期課程 5 名、後期課程 3 名 B(80%)：入学者：前期課程 3-4 名、後期課程 2 名 C(50%)：入学者：前期課程 1-2 名、後期課程 1 名 D(20%)：入学者：前期課程 0 名、後期課程 0 名	2022 末結果：C 2023：A 2024：A 2025：A 2026：A 2027：A 2028：A

Ⅴ【内部質保証委員会による点検・評価】

2022 年度＜所見＞
基準５の自己評価を「B」とされており、その理由として回答欄には「近年、受験生の減少が見られ」という記述のみとなっており、理由の説明としては不十分であるため、次年度の点検・評価シート記入の際はご留意願いたい。 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表されている。入試委員会を設置するとともに、学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定されている。これらの点は、公正な入学者選抜を実施するための運営体制が整備されているものと評価できる。

入学定員未充足は、５年平均値で修士課程 0.50 未満、博士課程 0.33 未満が、それぞれ改善課題となり、収容定員未充足は、修士課程 0.50 未満、博士課程 0.33 未満が、それぞれ改善課題となる。修士課程の入学定員充足率は、2019 年度に 0.20、その後 2022 年度まで 3 年連続で 0.00 となっており、５年平均値は 0.20 である。博士課程においては、2020 年度までは上記の基準を超える充足率だったが、2021 年度・2022 年度に 0.00 となっている。これらは、改善課題の対象となる。収容定員充足率は、博士課程後期課程においては基準に対して十分な充足率を示しているが、修士課程においては、2020 年度以降、2022 年度まで 0.10 以下であり改善課題の対象となる。

これらへの対応として、「学部学生を対象にしたワークショップ開催による大学院の PR」や「大学院説明会においても学部生に大学院についての説明等を行っている」とのことだが、「実際にどの程度の学生がワークショップや説明会に参加しているのか」という点やそれらの効果等については、A 票や根拠資料からは読み取れなかった。これらの試みを如何に受験生獲得に結びつけるかということについて検討のうえ取り組まれることが望まれる。

なお、「2021 年度大東文化大学点検・評価報告書」における【問題点】として、「5-3 収容定員充足率の改善」があげられている。これに対しては、B 票に報告されているように達成年度に向けた目標として「定員充足率を徐々に改善していく」と設定されており、2022 年度の実績として「前期課程研究生 1 名の入学」が報告されている。定員充足率の向上は容易に達成できる目標ではないことと察するが、具体的・段階的な目標設定やそれへの取り組み方法の検討・実施ならびにその効果の検証等を重ねて改善に向けて取り組まれることが望まれる。

2023 年度＜所見＞

学位授与方針、教育課程の編成方針と連関した入学者受入れ方針を前期・後期課程ごとに設定し HP 等で公表している点は評価できる。入学者選抜の制度化に関しては、課程ごとに入試委員会を組織し、「入学センター規程」及び「大東文化大学入学者選抜試験規程」により、公正な入学者選抜を実施するための運営体制が整備されていることが根拠資料から確認できる。

2023 年度の博士課程前期課程の入学志願者数は 1、入学定員に対する 5 年平均比率は 0.04、収容定員充足率は 0.00、博士課程後期課程の志願者数は 0、入学定員に対する 5 年平均比率は 0.33、収容定員充足率は 0.56 となっている。

回答の中で「入学者選抜については特に問題はないが、学生募集に関しては受験生の減少は社会状況による部分もあると思われるので、そのような要因も考慮しつつ総合的に検討して行きたい。」と記述されているが、今後具体的にいつどのように検討し、いつどのような行動に移して改善に向けていくかといった計画が資料からは読み取れなかった。また未充足であることの当該部局としての改善策として、「大学院説明会やワークショップなどにおける学部の学生への説明」を実施されていることは評価できるが、それらを実施したことによる効果の検証を始め、専攻として現状の多面的な分析・検討を行い改善に向けて取り組むことが望まれる。なお、現在、事業計画で定員充足率の改善を設定し目標も記されているが、アクションプランとしてこの目標達成のための具体的な取り組み内容を明確にすることをお願いしたい。

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

＜注＞「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。
解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準５学生の受け入れ

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学

習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。

大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。